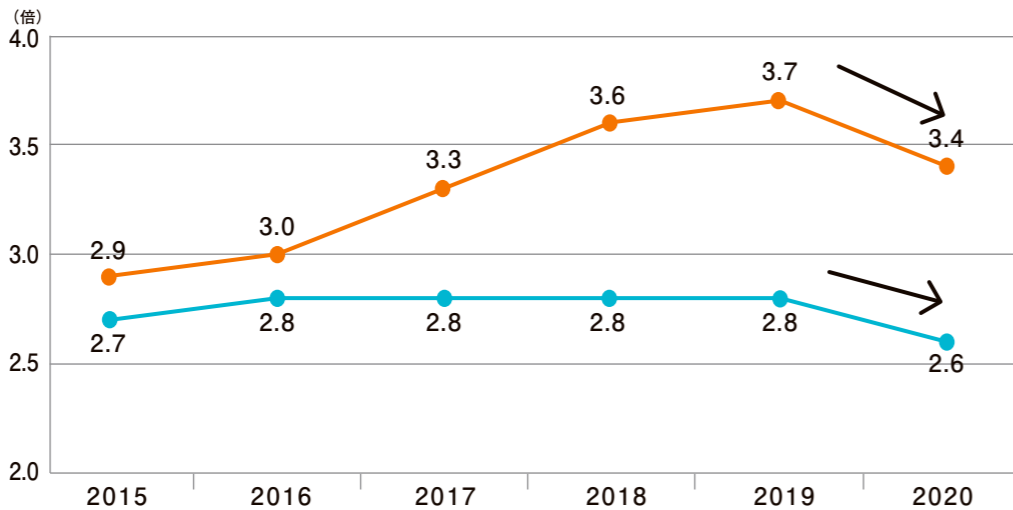


【図表3】  
国公立大、私立大  
ともに実質倍率は低下  
～一般入試の実質倍率  
6か年推移

— 私立大  
— 国公立大

\*ベネッセコーポレーション調べ。  
実質倍率は「受験者数÷合格者数」



【図表4】私立大の理、工、農・水産学系統は志願者数が増加  
～2020年度入試の学問系統別志願者数増減指数

学問系統	増減																
	増	減	増	減	増	減	増	減	増	減	増	減	増	減	増	減	
国公立大学	99	86	89	90	90	102	90	92	97	94	92	87	90	93	100	97	91
私立大学	98	96	90	95	92	89	97	97	102	92	103	96	89	90	101	105	104

\*ベネッセコーポレーション調べ。表の数値は前年の志願者数を100とした指数。100以上と90以下に網かけ

強く受けたからだと言えるでしょう【図表2】。

国公立大も、北海道を除く全てのエリアで志願者数が減少しています【図表2】。この背景には、センター試験の受験者数の減少があります。18歳人口の減少により現役生が減少したのに加えて、安全志向により既卒生も減り、前年よりも志願者数は約1万9千人減りました。さらに、センター試験の平均点が文系・理系ともに下がったことで、国公立大への出願に消極的になったことも志願者数減少の理由として考えられます。

学問系統別の志願状況では、これまでの文高理低が反転し、文低理高となっています【図表4】。前年までは、法学、経済・経営・商学、社会学といった文系学部の志願者数は増加傾向にありましたが、この主な理由は、併願受験者の増加による延べ志願者数の増加でした。ところが、受験生の「超安全志向」により挑戦校の受験校数が絞り込まれた結果、志願者数が減少に転じたのです。

一方で、私立大の理工系では志願者数が増加しています。データサイエンスやAI、ロボット工学など社会的なニーズを基にした学部の新設や改組が相次いでおり、受験生がこうした動きに敏感に反

事です。

これまで私立大は、入試の複雑化やWeb出願、学内併願割引の導入などにより、毎年志願者数を増やしてきました。さらにここ数年は、入学定員管理厳格化の影響で合格者数が絞り込まれる中、受験生は合格可能性を高めるために併願校数を増やす傾向にありました。そのため、私立大の実質倍率は年々上昇し【図表3】、受験生にとっては厳しい入試が続いていました。しかし、新入試を前にして受験生が「超安全志向」となり、この状況は一変しました。倍率が高く合格の望みが薄い挑戦校が敬遠され、安全校を中心に手堅く受験するようになったのです。特に私立大が多い首都圏や近畿で、私立大の全体志願者数が減少しています。これはこの変化の影響を

応じたものと思われる。

18歳人口の減少は、現在の中学3年生が大学受験を迎える2024年度入試まで続きます。そして、現在と比べると全国で約1割にあたる11万人が減少します。今後ますます学生募集市場が縮小するのは事実でしょう。

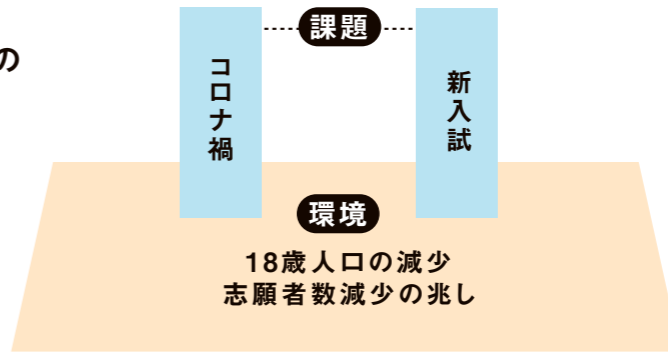
【図表2】は、2020年度入試の結果を前年度入試と対比し、前年の値を100とする増減指数で表したものです。全国の欄を見ると、18歳人口は99、国公立大の志願者数は94、私立大の全体志願者数は97となっており、18歳人口、志願者数ともに減少していることがわかります。特に、私立大の志願者数減少は14年ぶりの出来

**コロナ禍の影響を  
今後の模試データで確認**

次に、コロナ禍が2021年度入試の志願動向にどのような影響を与えるかを見ていきます。

次ページの【図表5】では、コロナ禍が受験生や保護者に与える影響と志願動向予測との関係を整理しています。影響としては、感染者数が多い都市部や地域へ進学することへの不安、経済状況の急変による受験や進学費用、大学卒業後の就職に対する不安、学校の臨時休業に伴う授業進度や進路指導の遅れ、各種大会等の中止による入試に対する不安が挙げられます。

【図表1】  
「コロナ禍」と「新入試」の  
両方の対応が必要  
～2021年度入試で  
大学に求められていること



【図表2】国公立大、私立大ともに志願者数は減少  
～2020年度入試のエリア別増減指数

エリア	2020/2019比						
	18歳人口	国公立大		私立大			
		募集人員	志願者数	募集人員	一般	センター利用	全体
全国	99	100	94	101	101	91	97
北海道	100	103	101	97	112	105	109
東北	99	99	93	100	105	97	102
関東	100	99	94	102	108	102	106
首都圏	99	100	94	100	100	87	95
北陸	100	100	91	99	122	115	120
中部	99	100	93	100	106	98	102
近畿	99	100	92	102	97	92	96
中四国	99	99	98	103	108	106	107
九州	99	99	90	100	111	104	108

\*ベネッセコーポレーション調べ。表の数値は前年の値を100とした指数。100未満に網かけ  
\*私立大の募集人員は一般・センター合算値。私立大のセンター併用型入試はセンター利用方式で集計  
\*関東：茨城県、栃木県、群馬県、新潟県／首都圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県／中部：長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

REPORT  
with  
コロナの  
**2021年度入試予測**



(株)進研アド  
Between編集長  
**中村浩二**  
なかむらこうじ●1990年(株)福武書店(現ベネッセコーポレーション)に入社。高校事業部にて高校の教育改革支援に携わった後、(株)進研アド九州支社勤務を経て現職。

**2020年度入試はどうだった？**

**私立大の志願者数が  
14年ぶりに減少**

2021年度入試において大学は、18歳人口や志願者数が減少する逆風の中、「コロナ禍」と「新入試」の2つの課題に対応しなければなりません【図表1】。まずは、2020年度入試を振り返り、大学が今置かれている状況を確認しておきましょう。

【図表2】は、2020年度入試の結果を前年度入試と対比し、前年の値を100とする増減指数で表したものです。全国の欄を見ると、18歳人口は99、国公立大の志願者数は94、私立大の全体志願者数は97となっており、18歳人口、志願者数ともに減少していることがわかります。特に、私立大の志願者数減少は14年ぶりの出来



【図表6】共通テストの導入や多面的・総合的評価の拡大がなされる ～新入試おける主な変更点

項目	主な変更内容	
共通テストの導入	英語	英語筆記は「リーディング」として実施。リスニングは1回読みと2回読みが混在。配点は「リーディング」と「リスニング」で均等(各100点)
	数学	「数学I」「数学I・数学A」は試験時間が10分増えて、70分100点満点で実施
多面的・総合的評価の拡大	入試での評価	学力の3要素を各入試区分で評価
	調査書	「両面1枚」の制限の撤廃、「評定平均値」の呼称を「学習成績の状況」に改めるなど
入試の新ルール	総合型選抜	出願は9月以降*、合格発表は11月以降。募集人員については制限を設けない
	学校推薦型選抜	出願は11月以降、合格発表は12月以降
	一般選抜	教科・科目に係るテスト実施時期は2月1日～3月25日まで、合格発表は3月31日まで

\*2021年度入試では9月15日以降に変更

【図表7】追試験の設定や出題範囲への配慮などが求められている ～2021年度入試におけるコロナ禍への対応

共通テスト	2つの日程および特別追試験で実施。①は当初予定の日程。②は学業の遅れによる受験を学校長が認めた人を対象とし、①の追試験としても実施。全都道府県に会場を設置。③の特例追試験は②の追試験として実施。各大学は③の受験者が出願可能な配慮を行う ①2021年1月16日、17日 ②2021年1月30日、31日 ③特例追試験2021年2月13日、14日
個別学力検査	新型コロナウイルス感染症等に罹患した受験生の受験機会確保のため、各大学は「追試験の設定」もしくは「追加の受験料を徴収せずに、別日程への受験の振替」のどちらかの対策を講ずる。各大学が講じた措置は、文部科学省のHPにて周知
出題範囲等	3年生で履修することの多い地理歴史、公民、理科、数学Ⅲに関して、共通テストでは2科目指定を1科目に減じることなどの、個別学力検査では選択問題を設けることなどの配慮が各大学に求められている。各大学が講じた措置は、文部科学省のHPにて周知
入試日程	総合型選抜の出願開始を9月1日から9月15日以降に遅らせる。合格発表は11月1日以降に変更なし
中止・延期された大会や資格・検定等への対応	総合型選抜や学校推薦型選抜においては、「入学志願者の成果獲得に向けた努力のプロセス」などを多面的・総合的に評価する、選抜ではICTを活用するなどの工夫が各大学に求められている
調査書	「第3学年の評定を記載できない場合は、その理由を付して記載不可とする」ことなどの取り扱いが可能

\*文部科学省「令和3年度大学入学者選抜実施要項」(2020年6月19日)をもとに作成

る、第1日程の試験問題を見て対策が立てられるといったメリットがある反面、私立大の一般選抜や、国立大の出願検討、個別学力検査の対策にかけられる時間が削られるといったデメリットがあります。そのため、受験生にとっては選択がしにくい日程だと言えます。

各大学が実施する試験においては、新型コロナウイルス感染症等に罹患した受験生の受験機会の確保や、試験の出題範囲等に関する配慮が求められています。これらの情報は、文部科学省のホームページで受験生などに周知されます。特に、出題範囲等に関する配慮では、大学が範囲外とした内容からの出題や、選択問題の難易の違いなどがないように、慎重な対応が必要となります。

試験当日も感染症対策が欠かせません。ガイドラインでは、他者との交流・接触を行うものではないことから、入試については「感染拡大のリスクは比較的低位に分類される」との認識を示したうえで、「試験室は収容定員の半分程度以内にするのが望ましい」「混雑を避けるため、トイレ休憩の時間を長めに確保すること」「当日の試験終了ごとに拭き取りによる消毒を行うこと」などの対策を取

ることが要請されています。混雑を避けるための誘導や試験監督、試験終了後の消毒などで多くの人手が必要となるため、全学を挙げて試験実施に臨むことが、本年度は強く求められます。

**18歳人口減少を見据えて 高大接続の強化を図ろう**

まずは、状況の変化に臨機応変に対応しながら学生募集を行うこと、安心・安全に試験を実施することが欠かせませんが、今後の18歳人口の減少をふまえると、高校との関係強化が入試広報の重要な課題です。

高校では、探究学習などの教育改革が進んでおり、自校の教育との接続性が進路指導では重視されつつあります。高校教員に自学の教育の理解者になってもらうことは、学生募集で「数」を確保するだけでなく、アドミッション・ポリシーに合った学生を獲得する「質」の面でも効果があります。そのため、大学には今、自学の教育の特色を高校教員に伝えて、改革が進む高校教育との接続性を高める高大接続の強化が求められていると言えるでしょう。高大接続の強化もブランディングの重要なテーマです。

\*文部科学省「令和3年度大学入学者選抜に係る新型コロナウイルス感染症に対応した試験実施のガイドライン」(2020年6月)

【図表5】コロナ禍は志望動向にさまざまな影響を及ぼすと予測 ～2021年度入試におけるコロナ禍の影響

観点	コロナ禍による影響					志望動向予測	
	感染予防	経済状況の急変	学校の臨時休業				
	感染リスクの不安	受験や進学費用の不安	就職の不安	授業進度の遅れ	進路指導の遅れ	各種大会等の中止	
設置区分別		●		●			進学費用の不安から、国公立大学志向が高まると予測される。一方で、授業進度の遅れなどから、受験科目数が少なく、共通テストを受験しなくてもよい私立大学への志望変更も考えられる
エリア別	●	●					感染リスク、受験や進学費用の不安から地元志向が高まると予測される
学問系統別	●	●	●				国際的な人の移動が制限される中での「国際」や「観光」、感染症対策で注目が集まる「医療看護」、ICT活用拡大で重要度が増す「情報」などの学問分野は高校生の心にどう映ったか。動向に注意したい
入試区分別		●		●		●	進学費用の不安から、奨学生入試・特待生入試の志願者数増加が考えられる。授業進度の遅れからは、一般選抜を敬遠して、学校推薦型選抜など年内入試への切り替えが考えられる。一方で、各種大会等の中止の影響や面接・小論文対策の時間がとれないなどの理由から、総合型選抜や学校推薦型選抜を敬遠する動きも考えられる
難易度別		●		●			受験費用を抑えるため、挑戦校や安全校で受験校数を絞り込むことが考えられる。また、進学費用の不安から現役志向が高まると予測され、さらに授業進度の遅れから安全校中心の受験となることが考えられる
認知度別					●		進路指導の遅れのほか、テストの中止や延期により、臨時休業中は学力把握が十分にできていない。そのため、大学調べや自分の学力をふまえた受験プランの検討が進んでおらず、自分が名前を知っている範囲での受験校選びとなる可能性がある

\*図表5、6、7は編集部作成

## コロナ禍で志望はどう変動？

授業進度の遅れからは受験科目数が少なく共通テストを受験しなくてもよい私立大への志望変更も考えられます。

学問系統別では、社会状況が前年度までと大きく異なるため、志望動向の変動が予想されます。コロナ禍によってクローズアップされた「国際」や「観光」「医療看護」「情報」などの学問分野は、高校生の心に何を残したのか。これらについては特に志望動向を注意して見る必要があるでしょう。

入試区分別では、授業進度の遅れから一般選抜を避けて学校推薦型選抜などの年内入試に切り替える動きが予想されます。大学側も、今後の状況が見通せないため、年内入試で可能な限り定員を確保しようとするのではないのでしょうか。しかしその一方で、出場予定だったスポーツなどの大会、受験予定だった各種検定試験が中止されたことで、総合型選抜や学校推薦型選抜での受験を見直す受験生の動きも考えられます。

コロナ禍が与える影響は刻々と変化しており、地域によっても状況は異なります。さらに、それら

が絡み合っているため、全体的な傾向は断言しにくいと言えます。そのため、模試データなどで実際の受験生の動きを追うことが本年度はとても重要です。自学と同じエリアの大学や学部構成が似た大学と志望状況を比較するなど、データを細かく見ていくことで、コロナ禍が自学の学生募集に与えている影響は見えてきます。その際、臨機応変に必要な対策が打てるように、学生募集の追加施策をあらかじめ検討しておくことも大切です。

**安心・安全な試験実施に 全学を挙げて取り組む**

2021年度入試では、新入試対応【図表6】に加えて、臨時休業による学業の遅れに対する配慮【図表7】や、試験当日の感染症予防対策が求められます。共通テストでは、当初予定の試験日の2週間後に、在学する学校長が学業の遅れを理由とする受験を認められた者が対象の第2日程での受験は、共通テスト対策に時間をかけられ